様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １３ 日現在

機関番号：３２２０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ０９２１１

研究課題名（和文）地域医療における精神医療ニーズの明確化と効果的な介入手段の探索

研究課題名（英文）Clarification of unmet need for mental health care in community medicine in Japan

研究代表者
須田　史朗（Suda, Shiro）

自治医科大学・医学部・教授

研究者番号：４０４３２２０７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究ではプライマリ・ケア医を対象としたアンケート調査を行い、地域医療における精神医療ニーズの明確化と効果的な介入手段の探索を進めた。結果、栃木県県南医療圏のプライマリ・ケア医の35%、自治医科大学卒業生のプライマリ・ケア医の57%が週一回以上精神疾患患者に関わっていた。精神医療に関与する意思のあるプライマリ・ケア医、精神医療スキルに自信があるプライマリ・ケア医が少なくとも1名以上所属している二次医療圏では、2021年度の自殺死亡率が低いことが判明した（P＝0.029、P＝0.003）。これらの結果からプライマリ・ケア医の精神医療への関与意思が地域の自殺死亡率と関連することが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の結果から、プライマリ・ケア医の約半数は日常的に精神医療に関与していること、またプライマリ・ケア医の精神医療への関心や自信は自殺率の軽減に寄与する可能性があることが示唆された。わが国の自殺率は高齢化の進む地域、また過疎地域で高いことが示されており、これらの地域には精神科医師数が少ないことが明らかとなっている。本研究の成果により、これらの自殺率の高い地域でプライマリ・ケア医の精神医療への協力を仰ぐことはその地域の自殺率を軽減することができる可能性が示され、今後の医療政策を検討する上での重要な知見がもたらされた。

研究成果の概要（英文）：A questionnaire survey was conducted. Primary care physicians who worked for the medical institutes in the secondary medical area in the south region of Tochigi prefecture and/or graduated from Jichi Medical University were recruited to answer the questionnaire. The results revealed that 35% of the physicians in the south region of Tochigi and 57 % of those graduated from Jichi Medical University were weekly involved in the psychiatric care, respectively. It is of note that the secondary medical areas which affiliate one or more primary care physicians who were interested in and confident about psychiatric care showed significantly lower crude suicide rate than the secondary medical areas without or unknown the affiliation of these physicians (P=0.029 for interested physicians, P=0.003 for confident physicians, respectively). These results suggested that the primary care physicians' willingness to engage psychiatric care were associated with their regional suicide rate.

研究分野：精神医学

キーワード：精神医療ニーズ　プライマリ・ケア　地域医療　うつ病　認知症　自殺

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｆ－１９－２

１．研究開始当初の背景

現代社会はストレス社会とも言われており、うつ病を筆頭に精神科領域の患者はますます増加している。厚生労働省の患者調査（2014 年）から推定されるわが国のうつ病（躁うつ病を含む）の患者数は 110 万人を超えており、高脂血症（140 万人）、喘息（130 万人）に次ぐ common disease となっている。しかし、うつ病の 12 ヶ月有病率が 3～5%（WHO）であることを考慮するとわが国の実際のうつ病患者数は 300 万人以上であることが想定され、まだまだ多くの患者が医療機関を受診していないか、専門的な治療を受けていないという実態がある。

またわが国では、自殺率の高さも問題である。人口 10 万人あたりの自殺総数は 23 人と世界平均の約二倍となっており、欧米諸国と比較して依然高い数値を保っている（WHO, 2012）。自殺未遂者の半数以上、自殺既遂者の 9 割は何らかの精神疾患を抱えていたとされているが、厚生労働省の調査では自殺企図前に精神科を受診していた割合は 3.8%とごくわずかであったことが明らかになっている。精神障害による自殺で労災認定された自殺既遂者調査においても精神科の受診歴がある割合は 20%と低く、対策は急務である（厚生労働省：職場における自殺の予防と対応）。欧米での調査でも、自殺既遂前に精神科を受診していた割合は 18%とわが国と同様に低いが、45%は何らかの身体症状を訴えプライマリ・ケア医を受診していたことが明らかになっており、自殺予防に対するプライマリ・ケアの重要性が指摘されている（Lumoa et al, 2002）。

加えてわが国は未曾有の高齢化社会を迎えようとしており、2025 年には認知症患者が 700 万人を超えることが推計されている（厚生労働省, 2015）。認知症患者では 7～9 割に行動・心理症状（BPSD）が出現することが指摘されており（Ferri et al, 2004）、これらの問題に対処するためにはプライマリ・ケア医の精神疾患への対応力の向上なくしては成り立たない現状がある。

これらの背景から総合医療に精神保健を組み込むことの必要性が重要視され、2004 年から開始された医師臨床研修制度では精神科研修が必修とされていた。しかし 2010 年の制度見直しにより精神科研修は選択制となり、卒後教育の一環としてプライマリ・ケア医に対する精神科研修プログラムが整備されている欧米との乖離がますます進んでしまっている。特に精神疾患においては、スティグマの問題から精神科受診を忌避する患者も多く、相当数の精神疾患患者がプライマリ・ケア医を受診していることが想定されるが、その実態は明らかにされていない。

２．研究の目的

2014 年の OECD 医療の質レビューにおいて、わが国は①プライマリ・ケア医に対する精神科研修体制の不備や、②プライマリ・ケア医と精神科専門医療機関との連携体制の不十分さがあることが指摘されており、有効な対策の提言が求められている。これらの問題点に対応するためには地域医療における精神医療の実態を明らかにすることが欠かせない。本研究では地域医療における精神医療ニーズを明確化し、わが国が直面している問題点を明らかにするとともに、効果的な介入手段を探求することを目的とする。

３．研究の方法

自治医科大学が位置する栃木県県南医療圏においてプライマリ・ケアに従事する医療機関および全国でプライマリ・ケアに従事する自治医科大学卒業生を対象としたアンケート調査を行った。調査項目は全通院患者数、精神疾患患者の通院数、調査対象患者の診断・年齢・性別・身体合併症の有無･精神科医療機関通院の有無･睡眠薬や抗不安薬､その他の向精神薬の処方の有無、精神科医療機関との連携の状況、精神科医療機関との連携に関連したトラブルの発生件数、精神科研修の経験・希望の有無、精神医療に対する関与の意思、精神医療のスキルについての自己評価、対象機関の地域情報とした。得られたデータは全国二次医療圏ごとに分類した。また、アンケートの回答を取得した時期と一致した全国二次医療圏における自殺率データ（粗死亡率）を警察庁の統計データより取得し、アンケート調査結果との比較検討を行った。統計についてはカイ二乗検定を用い、有意水準は 0.05 とした。

４．研究成果

コロナ禍のため、途中研究の中断を要したが、2021 年 6 月までに栃木県県南医療圏（以下県南医療圏）のプライマリ・ケア医 58 名、全国でプライマリ・ケアに従事する自治医科大学卒業生 165 名から有効回答を得た。結果、県南医療圏のプライマリ・ケア医の 35%、自治医科大学卒業生の 57%が週に 1 回以上、精神疾患患者の診療に当たっていた（表１）。また、医療連携に関しては、県南医療圏の 17%が「良くない」と回答したのに対し、自治医科大学卒業生の 25%が「良くない」と回答しており、比較的医療資源が潤沢である県南医療圏のプライマリ・ケア医療機関と精神科医療機関との連携は良好であることが示唆された。

プライマリ・ケア医が経験した精神症状については、県南医療圏、自治医科大学卒業生の 70%以上が、抑うつ状態、不安・焦燥、睡眠障害、認知症の診療経験あり、と回答しており、うつ病、不安障害、睡眠障害、認知症についてはプライマリ・ケア医が日常的に診療を行っている実態が明らかとなった（表２）。

プライマリ・ケア医の精神医療に対する関与意思については、県南医療圏のプライマリ・ケア医の 33%が「関わりたくない」と回答したのに対し、自治医科大学卒業生では「関わりたくない」との回答は 24%と少なく､自治医科大学卒業生の精神医療に対する関心の高さが伺われた。

また、精神医療への関与意思を示した自治医科大学卒業生の勤務地を検討したところ、かなりの地域差があり、また比較的郊外の高齢化が進んでいる地域が中心であることが判明した（図 1）。

これらの回答が得られたプライマリ・ケア医の勤務地を全国二次医療圏（335 医療圏）ごとに分類し、少なくとも 1 件の「精神医療への関与意思がある」というアンケート結果が得られた医療圏を「精神医療に関心がある」医療圏、その他の医療圏を「関心が不明」な医療圏と定義し、それぞれの医療圏における 2021 年度の自殺者数、人口データから粗死亡率（対 10 万）を算出した。「関心がある」医療圏の粗死亡率は 16.1、「関心が不明」な医療圏の粗死亡率は 16.6 であった。カイ二乗検定を行ったところ、p=0.029 と有意差が認められ、関心がある医療圏の粗死亡率は関心が不明な医療圏よりも低いことが示唆された（表 3）。

また、同様に、精神医療のスキルについての自己評価も検討対象とした。少なくとも 1 件の「精神医療に自信がある」というアンケート結果が得られた医療圏を「精神医療に自信がある」医療圏、その他の医療圏を「自信が不明」な医療圏と定義し、それぞれの医療圏における 2021 年度の粗死亡率を算出した。「自信がある」医療圏の粗死亡率は 15.8、「自信が不明」な医療圏の粗死亡率は 16.7 であり、カイ二乗検定では、p=0.003 と有意差が認められ、「自信がある」医療圏の粗死亡率は関心が不明な医療圏よりも低いことが示唆された（表 4）。

これらの結果から、プライマリ・ケア医はうつ病、不安障害、睡眠障害、認知症などの精神疾患を日常的に診療していること、地域のプライマリ・ケア医の高い精神医療への関心、精神医療スキルへの自信は地域の自殺死亡率の低下と関連することが示唆された。本研究の成果により、自殺率の高い地域でプライマリ・ケア医の精神医療への協力を仰ぐことにより、その地域の自殺率を軽減することができる可能性が示された。

（図、表）

表 1. プライマリ・ケア医への精神疾患患者の受診頻度

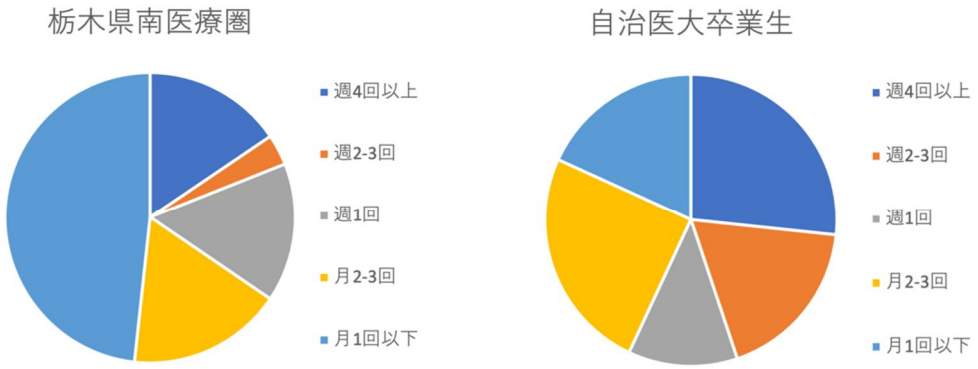

表 2. プライマリ・ケア医が経験した精神症状

	県南保健医療圏		自治医科大学卒業生	
	「あり」の数	%	「あり」の数	%
抑うつ状態	48	82.8	145	87.9
不安・焦燥	43	74.1	134	81.2
パニック	20	34.5	77	46.7
対人恐怖・ひきこもり	7	12.1	31	18.8
幻覚（幻聴・幻視）	18	31.0	76	46.1
妄想	17	29.3	70	42.4
躁状態	1	1.7	27	16.4
睡眠障害	49	84.5	150	90.9
心気症状	15	25.9	71	43.0
興奮・暴力	5	8.6	40	24.2
自傷行為・自殺企図	5	8.6	34	20.6
けいれん	13	22.4	52	31.5
せん妄・意識障害	17	29.3	72	43.6
知的障害・発達障害	25	43.1	85	51.5
認知症	46	79.3	144	87.3
その他	1	1.7	3	1.8

図 1．精神医療に関心があると回答した自治医科大学卒業生の勤務地分布

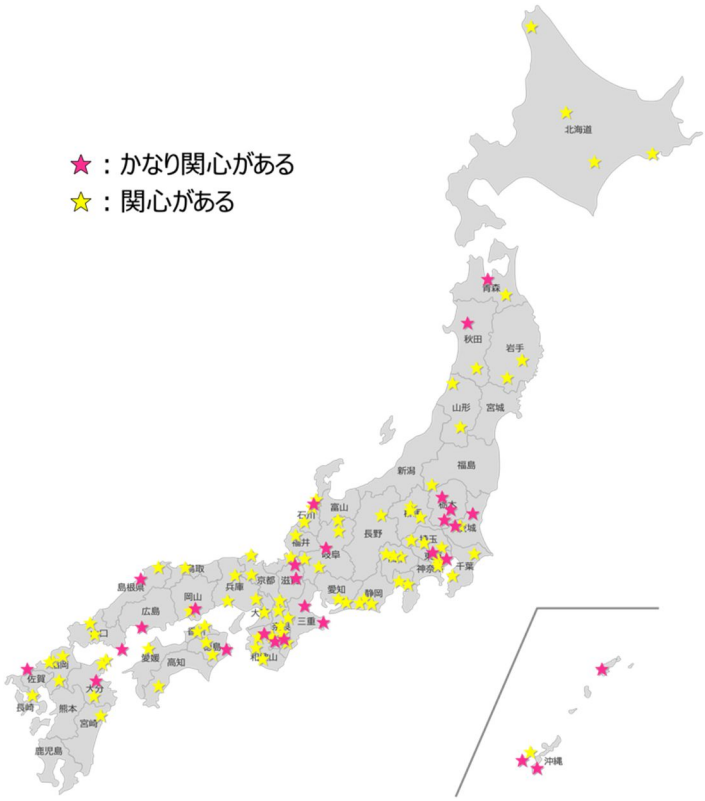

表 3．精神医療に「関心がある」医療圏と「関心が不明」な医療圏の自殺による粗死亡率

	二次医療圏数	自殺者数	人口	粗死亡率
関心がある	94	6,526	40,495,306	16.1
関心が不明	241	14,324	86,035,012	16.6

*カイ二乗検定 p=0.029

表 4．精神医療に「自信がある」医療圏と「自信が不明」な医療圏の自殺による粗死亡率

	二次医療圏数	自殺者数	人口	粗死亡率
自信がある	55	4,370	27,573,144	15.8
自信が不明	280	16,480	98,957,174	16.7

*カイ二乗検定 p=0.003

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計16件（うち査読付論文　14件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 Inagawa Yuta、Shioda Katsutoshi、Kato Rika、Okada Tsuyoshi、Kobayashi Toshiyuki、Suda Shiro	４．巻 -
２．論文標題 The impact of the number of electroconvulsive therapy sessions on relapse in major depressive disorder	５．発行年 2022年
３．雑誌名 International Journal of Psychiatry in Clinical Practice	６．最初と最後の頁 1～5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/13651501.2022.2035771	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Takano Manabu、Okada Tsuyoshi、Kobayashi Toshiyuki、Suda Shiro	４．巻 17
２．論文標題 Syndrome of inappropriate antidiuretic hormone secretion induced by suvorexant: a case report	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Journal of Clinical Sleep Medicine	６．最初と最後の頁 593～594
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5664/jcsm.8970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Takano Manabu、Okada Tsuyoshi、Kobayashi Toshiyuki、Suda Shiro	４．巻 17
２．論文標題 Syndrome of inappropriate antidiuretic hormone secretion induced by suvorexant: a case report	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Journal of Clinical Sleep Medicine	６．最初と最後の頁 593～594
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5664/jcsm.8970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Okada Tsuyoshi、Shioda Katsutoshi、Makiguchi Akiko、Suda Shiro	４．巻 23
２．論文標題 Risperidone and 5-HT2A Receptor Antagonists Attenuate and Reverse Cocaine-Induced Hyperthermia in Rats	５．発行年 2020年
３．雑誌名 International Journal of Neuropsychopharmacology	６．最初と最後の頁 811～820
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/ijnp/pyaa065	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Okada Tsuyoshi、Suda Shiro	4．巻 74
2．論文標題 Intermittent psychotic symptoms in an adult with history of neonatal parasagittal injury: A case report	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6．最初と最後の頁 373～374
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/pcn.13006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Inagawa Yuta、Okada Tsuyoshi、Yasuda Manabu、Sato Kengo、Watanabe Ryosuke、Kawai Tetsuro、Umino Mami、Inoue Koju、Suda Shiro	4．巻 51
2．論文標題 Continuous electroconvulsive therapy for a patient with recurrent post-partum psychosis	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Asian Journal of Psychiatry	6．最初と最後の頁 102078～102078
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ajp.2020.102078	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Shimizu Kanako、Kobayashi Toshiyuki、Kato Satoshi、Ishikawa Shizukiyo、Suda Shiro	4．巻 20
2．論文標題 Clinical features of bereavement‐related depression in Japanese elderly: an observational study	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Psychogeriatrics	6．最初と最後の頁 530～532
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/psyg.12509	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 須田史朗	4．巻 29
2．論文標題 戦後最大の国難に直面して	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本社会精神医学会雑誌	6．最初と最後の頁 111～112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森下順子、安田学、福田公子、 小林聡幸、須田史朗	4．巻 29
2．論文標題 わが国の判例からみたDV（ドメスティック・バイオレンス）被害者の現状と課題 - 男性被害者の検討 -	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本社会精神医学会雑誌	6．最初と最後の頁 282～299
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kurotori Isaku、Abe Takaaki、Kato Rika、Ishikawa Shizukiyo、Suda Shiro	4．巻 73
2．論文標題 Dropout from cognitive behavioral approach with behavioral limitation in adolescents with severe anorexia nervosa in Japan	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6．最初と最後の頁 717～719
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/pcn.12930	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kurotori Isaku、Shioda Katsutoshi、Abe Takaaki、Kato Rika、Ishikawa Shizukiyo、Suda Shiro	4．巻 Volume 15
2．論文標題 An Inpatient Observational Study: Characteristics And Outcomes Of Avoidant/Restrictive Food Intake Disorder (ARFID) In Children And Adolescents In Japan	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Neuropsychiatric Disease and Treatment	6．最初と最後の頁 3313～3321
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2147/NDT.S218354	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Okada Tsuyoshi、Kumakura Jun、Yasuda Manabu、Suda Shiro	4．巻 47
2．論文標題 Treatment-resistant schizophrenia successfully maintained with brexpiprazole following abrupt withdrawal of clozapine due to neutropenia	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Asian Journal of Psychiatry	6．最初と最後の頁 101836～101836
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ajp.2019.10.016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 須田史朗	４．巻 21
２．論文標題 福祉の現場から 地域医療における精神科医療ニーズについて	５．発行年 2019年
３．雑誌名 地域ケアリング	６．最初と最後の頁 56～59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 須田史朗	４．巻 28
２．論文標題 ICD-11とDSM-5の対比と社会的背景・疾病化	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本社会精神医学会雑誌	６．最初と最後の頁 129～138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Inagawa Yuta、Saito Shinnosuke、Okada Tsuyoshi、Inoue Koju、Suda Shiro	４．巻 20
２．論文標題 Electroconvulsive Therapy for Catatonia With Deep Venous Thrombosis	５．発行年 2018年
３．雑誌名 The Primary Care Companion For CNS Disorders	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4088/PCC.18m02286	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Umino Mami、Kobayashi Ryoko、Nisijima Koichi、Suda Shiro	４．巻 19
２．論文標題 Late-Onset Rhabdomyolysis Associated With an Intramuscular Injection of Fluphenazine Decanoate	５．発行年 2017年
３．雑誌名 The Primary Care Companion For CNS Disorders	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4088/PCC.16l02078	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計1件

１．著者名 小林聡幸、須田 史朗、阿部隆明、黒鳥偉作、齋藤 慎之介	４．発行年 2020年
２．出版社 星和書店	５．総ページ数 184
３．書名 摂食障害入院治療	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	塩田　勝利 (Shioda Katsutoshi) (40398516)	自治医科大学・医学部・教授 (32202)	
研究分担者	安田　学 (Yasuda Manabu) (40468343)	自治医科大学・医学部・講師 (32202)	
研究分担者	齋藤　慎之介 (Saito Shinnosuke) (40726288)	自治医科大学・医学部・講師 (32202)	
研究分担者	北田　志郎 (Kitada Shiro) (50713856)	大東文化大学・スポーツ健康科学部・教授 (32636)	
研究分担者	加藤　梨佳 (Kato Rika) (50759941)	自治医科大学・医学部・助教 (32202)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	小林　聡幸 (Kobayashi Toshiyuki) (70296101)	自治医科大学・医学部・教授 (32202)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関